

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200503		
法人名	富田ケアセンター有限会社		
事業所名	グループホーム富田の里(黄桃ユニット)		
所在地	倉敷市玉島道口2752-1		
自己評価作成日	令和 2 年 11 月 3 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;jizyosyoCd=3390200503-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;jizyosyoCd=3390200503-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	令和 2 年 11 月 10 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルス感染予防の為、ご家族様には面会を自粛して頂く中、こまめに日々のご様子をお伝えし信頼関係を構築しています。「看取りも出来るグループホーム」を目指し、今年3名の方をお見送りさせて頂きました。看護師を中心に看取りの取り組みや、認知症介護実践リーダー研修修了者を中心に認知症ケア講座を毎月開催し「ユマニチュードケア」を学び、実践に繋げています。利用者様の「終の棲家」として安心・安全な生活を送って頂けるよう、安定した支援ができるよう尽力しています。また、外国人技能実習生を4名配置し、日本の認知症介護を共に勉強しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者が、家族からの意見を真摯に受け止め、どうすれば改善できるかを切磋琢磨している。決して管理として満足しているのではなく、まだまだ出ていないという気持ちの中で施設に関わる全ての人に当てはまるように、「どうしたらより良くなるのか?」を確認しながら、学びの場としている。どんなことも、利用者が常に主人公。そして家族がディレクター、そして職員は演出道具係のように見守り、その人らしく、人生が有意義になるように努めていた。また、外国人技能実習生から、異風土や異文化から考え方を見出しながら、経験に上乘せをしてきた。看取りとしての終の棲家として、人生の成果を披露している支援の姿が手に取れた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	会社理念を毎日朝礼で唱和している。会社理念と施設理念をスタッフルームに掲示し、いつでも見られるようにしている。	理念は毎日唱和しているので、職員全体に浸透している。理念の掲示してある場所は事務所のみだが、制服のシャツとパーカーの背中には英語表記で理念が書かれ、スタッフの仕事の後ろ姿からも、外国人実務者にも悟れるように工夫されている。	今月、今週の目標そして本日のやるべきことを設定して、経営理念をもっと具体的に掲げて、さらに、身近なものにしてみたいかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年は新型コロナウイルスの感染拡大により全ての予定が行えていない。	地域の清掃活動に参加し、川や溝の掃除を行った。10月から「生涯現役富田クラブ」が再開され、クラフト作りや睡眠の講演会を行った。施設の送迎付きで、今後も毎月1回は実施する予定なので、地域の人と深い関係を築けるように、参加しやすい場を作っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年は新型コロナウイルスの感染拡大により全ての予定が行えていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年は新型コロナウイルスの感染拡大により全ての予定が行えていない。	コロナの影響で実施が出来ない状況から、資料の郵送、伝わりやすい会議を目指している。以前は、地域の愛育委員、民生委員、介護保険課、高齢者支援センターの包括、病院関係者、グループホームの職員が参加し、活動内容の報告や活発な意見交換をし、サービスに活かしていた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	実地指導により、現状をお伝えした。	市町村とは、主にセンター長を中心に連携が取れている。実地指導の際にわからないことを、指導監査課へ質問したところ、丁寧に教えてくれたことがあり、施設に欠かせない関係が叶っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月毎に身体拘束適正化検討委員会を開催し、身体拘束廃止への取り組みを周知徹底している。また、身体拘束廃止に関する指針、身体拘束等の排除の理念及び方針を定めている。身体拘束に関する勉強会を行い認識を深めている。	利用者の気持ちを尊重し、身体拘束にあたることはしていない。目の触れるところに身体拘束の資料を掲示し、職員全体に周知している。「座って待って」とは言わずに、「パズルをしよう」、「洗濯物を畳もう」と言葉掛けをしてスピーチロックにならないように配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての研修を行い、資料は何時でも閲覧できる所に置いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての研修を行い、資料は何時でも閲覧できる所に置いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、内容を十分に説明し、納得していただいた時点で署名、捺印をお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置をしている。また、「意見、苦情は宝」としてしっかり受け止め、解決策を考案している。	利用者や家族から出た意見は、部署会で話し合い、職員間で情報を共有している。また、意見箱に寄せられた問題箇所を早期に解決した際には、家族の方が「すぐ対応してくれたんだ」と大いに喜んでくれ、英気となって、スタッフ一同の励みとなった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回、部署会を開催し、職員の意見交換の場となるような機会を設けている。	月に1回部署会を開き、問題提起や職員のやりたい事を聞いている。また、職員が意見を言いやすいように事前に聞き取りを行い、話題作りができる環境を整えている。外国人技能実習生の介護に対する取り組みから、新しい発見があった。「人は常に学ぶ！」の精神を大切にしている。	家族の意見箱の成果に準じて、同じ若しくは、違う形で職員の意見が反映できるようなBOX(人の目を気にせず意見が書ける)を製作してみたいかがあるか。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半期に1度ずつ、個人評価シートを用い個々の評価を行っている。また、職種別職務遂行基準表にて自己評価を行い自己の出来ていない所の気付きと改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職種別研究会を立ち上げ、各職種ごとのレベルアップの為に研修を行っている。また、外部研修にも積極的に参加できるように取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染予防の為、外部との交流は十分にはできていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	馴染みの関係になれるまでの間は、しっかりコミュニケーションをとり、人間関係の構築を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の介護に対する要望等を事細かに伺い、反映できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望を踏まえたケアプランを策定している。必要に応じ、福祉用具の利用を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	過剰な介護はせず、自分でできることはやっていただくようにしている。簡単な家事等は、職員と一緒にしようとしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員と家族が共に支援者となれるようにし、方向性を定められるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出を控えているので、施設内での馴染みの人や場所で交流して楽しい場を作っている。隣のユニットでのご近所づきあいをしたり、天気の良い日は、グループホーム一周旅行と称して、健康に気遣いながら、交流を深めている。	コロナの影響で、遠出の外出は控えるようになった反面、隣のユニットや施設内を「一周旅行」と称して散策したことで、新たな馴染みの人や馴染み深い場所が身近につくられることとなった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は、共有スペースで共に過ごし、お互いの存在を確認し合っている。また、利用者同士が交流できるような時間を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後、利用しているサービス機関の職員に現在の様子を伺い、現状の把握を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中や表情等から要望などが聞き取れるようにしている。	利用者の気持ちを一番に考えて、納得するまで付き合うように配慮している。考えを押し付けるのではなく、「どうする？」の問いかけを大切にしている。「家族に電話しようか」と言うと「おー！！」と言って笑顔で喜んでくれる利用者と併せて、家族も喜びが増していた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前から、本人、家族、ケアマネジャー、ソーシャルワーカー等、関りのある方から情報を聴取している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント、モニタリングの中で問題が生じた時には、現状に添った介護サービスが提供できるような介護計画を検討している。	介護計画は、入居時、半年、1年ごとに作成していて、異変があればその都度見直しを行っている。モニタリングは、3か月に1度、会議の中で職員の意見を聞きながら見直しを行っている。また、毎日の振り返りを行うことによって、介護が日々のモニタリング形式となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の行動や精神状態など観察事項を記録し、細かいことも職員間で共有し、介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時のニーズに沿った介護保険事業所を紹介し、柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染予防の為、地域資源の活用には至らなかった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの馴染みの主治医が入居後もそのまま継続されるようにしている。また、協力医療との関わりを大切に、迅速な対応ができています。	センター長が看護師資格を持っているので、ドクターとの連携は密に取れ、職員も安心感が高い。基本的には入居前からのかかりつけ医を継続してもらっている。受診の際には、状況を的確に把握できるように日頃の様子をまとめた書類を持って行くようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師がおり、24時間連絡が取れる体制ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、情報提供シートを入院先に持参し、日頃の様子や入院までの経過を病院職員に申し送るようにしている。また、入院中も、様子を伺い情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応に関する指針、看取り介護指針を定め、入居時には同意書をいただいている。また、「その時」の対応はしっかり話し合い主治医との連携が図れるようにしている。	ターミナルの実績あり。看取りについては家族と常に相談し、できるだけ自然のままであることを尊重し、元気な時に聴いていた歌を流すことや、部屋で家族の方と一緒に過して見守りに配慮している。そんなエンジェルケアも行い、人生の終を「笑顔で微笑んでいるよね」と家族が思える人生を走馬灯のように映していた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを何時でも閲覧できる場所に置いている。また、定期的に事業所内で研修を行い、周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、火災や地震、水害を想定した避難訓練を実施している。また、防災計画は何時でも閲覧できる場所に置いている。定期的に防災教育を行っている。	昼夜設定で実施。防災の意識は高く、ハザードマップや緊急連絡網を掲示している。防災訓練では、職員が救助袋で滑る体験をし、途中で止まる問題点も発見し改善中である。備蓄は、法人内の富田の家に一括保管だが、お米やオムツは施設内でも保管している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の個性を把握し、その方に合った接し方を実施。接遇マナーの遵守に心掛けている。	家族の了承のもと、利用者に合った呼称で呼ぶようにしている。名字で呼んでも反応はないが、「先生」と呼ぶと返事をする利用者もいる。また、排泄失敗時の際には、プライバシーに心配りし、1対1での対応を心掛け、利用者の気持ちと向き合うことを大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	まず、どうしたいか、何がしたいかを伺い利用者本位の生活ができるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、受容、傾聴の姿勢を意識し、一人一人の意向に沿った生活ができるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った衣服を選択し、身だしなみを整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の咀嚼力、嚥下状態に合った食事形態で提供している。食べたい物を伺い、簡単な野菜の皮むきや、おやつ作りなどを職員と一緒に調理や食べる楽しみが持てるようにしている。	食事は1時間程度取っているため、自分のペースでゆっくり食事ができている。食べる場所は自由で、テレビの前で食べている利用者もいた。月2回、昼食作りやおやつ作りをする調理の日を設けている。部署の方針で職員も同じ食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の立てた献立で、バランスのとれた食事が提供できている。定時に水分補給を促し、一日に必要な水分量が摂れるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、自分で行えるようにし、できないところだけ手伝うようにしている。義歯の方は、就寝前には外し、入れ歯洗浄剤にて除菌、洗浄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者毎の排泄表を記入し、排泄リズムが把握しやすいようにしている。オムツを使っている方も日中はトイレに座り排泄できるようにしている。	チェック表を活用し、排泄パターンを把握している。職員はソワソワしたりする動作など、些細な動きを見逃さずに適切な言葉掛けをしている。トイレへ頻繁に行く人に対しても、「さっき行ったでしょ」は絶対に言わずに、利用者本位に併せて、一緒に行くようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ自然排便ができるように、水分補給を行ったり、食事にも気を付けている。どうしても便秘になりがちな時は、緩下剤等で排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調や気分に応じ、入浴ができるようにしている。拒否がある時は無理強いせず、本人の要望を受け止めている。	基本は週2、3回で昼食後の入浴。利用者の気持ちを尊重し、毎朝起きてすぐの入浴や夜の入浴も可能。浴槽内では童心に返り、ゆっくりと自分の時間を楽しむ利用者もいる。浴槽に入れない人に対しては、シャワーキャリーを使用する工夫が見られた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜のメリハリをつけ、生活リズムを整えている。夜は、眠たくなったら居室に入り、スムーズに眠れるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬は、薬剤情報を確認し、どのような薬を服用しているかを把握するようにしている。また、薬効や症状の変化等、主治医に報告するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や職歴などからやりたいこと、好きなことなどを導き出し、脳トレや家事、カラオケなどが楽しめるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は控えているが、施設内のユニット間を移動したり、天気の良い日は、グループホーム一周旅行と称して、施設内の散策をしている。	遠出ができないので、各ユニット間を歩き来したり、日向ぼっこをしたりして日々を過ごしている。また、施設一周旅行と称して施設内を散歩する工夫が見られた。他には、写真や画集を見て思い出にふけられる外出支援に代わる取り組みもしている。庭の散策や日向ぼっこは、落ち着けるシーンの一つとなっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	新型コロナウイルス感染予防の為、買い物等は控えた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	新型コロナウイルス感染予防の為、家族の面会を自粛した中、電話でのやりとりでお互いの安否を確認し合うなどを支援した。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	年間を通し、空調により快適な室温を調節している。また、空間除菌ができる加湿器にて適度な湿度とオゾン発生器による除菌や消臭にも配慮している。季節の飾りつけを行い季節感が持てるようにした。時間に応じ、照明を調節している。	リビングは広くて清潔感が保たれていた。空気清浄機の使用や窓を開けて空気の入替えをして、感染予防対策に取り組んでいた。利用者は、テレビに熱中したり、ティータイムを楽しんだりして、自分の時間をゆったり・まったりと過ごしていた。リビング全体に響き渡っている歌声が、今でも耳の奥底に奏でている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースでの座席は固定されておらず、その日、その時に本人が決めている。ソファーに座り寛ぐことが多い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から使い慣れた物を持参して頂いている。居室の壁には家族の写真なども自由に飾り、制限は行っていない。	部屋の壁には、写真や感謝状、誕生日の色紙が飾られている。家具は馴染みのものを自由に持ち込むことができ、本人や家族と相談し、安全面に配慮した配置をしている。窓の外には一面のブドウ畑が広がり、「生きている実感」を四季の移り変わりから肌と感じ取れる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境を整備し、障害物などからの危険が回避できるようにしている。トイレの場所がわかりやすいように表示したり、居室のドアに名前や写真で表札にし、自分の部屋がわかりやすいようにしている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200503		
法人名	富田ケアセンター有限会社		
事業所名	グループホーム富田の里(白桃ユニット)		
所在地	倉敷市玉島道口2752-1		
自己評価作成日	令和 2 年 11 月 3 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;jizyosyoCd=3390200503-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;jizyosyoCd=3390200503-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	令和 2 年 11 月 10 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルス感染予防の為、ご家族様には面会を自粛して頂く中、こまめに日々のご様子をお伝えし信頼関係を構築しています。「看取りも出来るグループホーム」を目指し、今年3名の方をお見送りさせて頂きました。看護師を中心に看取りの取り組みや、認知症介護実践リーダー研修修了者を中心に認知症ケア講座を毎月開催し「ユマニチュードケア」を学び、実践に繋げています。利用者様の「終の棲家」として安心・安全な生活を送って頂けるよう、安定した支援ができるよう尽力しています。また、外国人技能実習生を4名配置し、日本の認知症介護を共に勉強しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者が、家族からの意見を真摯に受け止め、どうすれば改善できるかを切磋琢磨している。決して管理として満足しているのではなく、まだまだ出ていないという気持ちの中で施設に関わる全ての人に当てはまるように、「どうしたらより良くなるのか?」を確認しながら、学びの場としている。どんなことも、利用者が常に主人公。そして家族がディレクター、そして職員は演出道具係のように見守り、その人らしく、人生が有意義になるように努めていた。また、外国人技能実習生から、異風土や異文化から考え方を見出しながら、経験に上乘せをしてきた。看取りとしての終の棲家として、人生の成果を披露している支援の姿が手に取れた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践にっなげている	会社理念を毎日朝礼で唱和している。会社理念と施設理念をスタッフルームに掲示し、いつでも見られるようにしている。	理念は毎日唱和しているので、職員全体に浸透している。理念の掲示してある場所は事務所のみだが、制服のシャツとパーカーの背中には英語表記で理念が書かれ、スタッフの仕事の後ろ姿からも、外国人実務者にも悟れるように工夫されている。	今月、今週の目標そして本日のやるべきことを設定して、経営理念をもっと具体的に掲げて、さらに、身近なものにしてみたいかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年は新型コロナウイルスの感染拡大により全ての予定が行えていない。	地域の清掃活動に参加し、川や溝の掃除を行った。10月から「生涯現役富田クラブ」が再開され、クラフト作りや睡眠の講演会を行った。施設の送迎付きで、今後も毎月1回は実施する予定なので、地域の人と深い関係を築けるように、参加しやすい場を作っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年は新型コロナウイルスの感染拡大により全ての予定が行えていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年は新型コロナウイルスの感染拡大により全ての予定が行えていない。	コロナの影響で実施が出来ない状況から、資料の郵送、伝わりやすい会議を目指している。以前は、地域の愛育委員、民生委員、介護保険課、高齢者支援センターの包括、病院関係者、グループホームの職員が参加し、活動内容の報告や活発な意見交換をし、サービスに活かしていた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	実地指導により、現状をお伝えした。	市町村とは、主にセンター長を中心に連携が取れている。実地指導の際にわからないことを、指導監査課へ質問したところ、丁寧に教えてくれたことがあり、施設に欠かせない関係が叶っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月毎に身体拘束適正化検討委員会を開催し、身体拘束廃止への取り組みを周知徹底している。また、身体拘束廃止に関する指針、身体拘束等の排除の理念及び方針を定めている。身体拘束に関する勉強会を行い認識を深めている。	利用者の気持ちを尊重し、身体拘束にあたることはしていない。目の触れるところに身体拘束の資料を掲示し、職員全体に周知している。「座って待って」とは言わずに、「パズルをしよう」、「洗濯物を畳もう」と言葉掛けをしてスピーチロックにならないように配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての研修を行い、資料は何時でも閲覧できる所に置いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての研修を行い、資料は何時でも閲覧できる所に置いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、内容を十分に説明し、納得していただいた時点で署名、捺印をお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置をしている。また、「意見、苦情は宝」としてしっかり受け止め、解決策を考案している。	利用者や家族から出た意見は、部署会で話し合い、職員間で情報を共有している。また、意見箱に寄せられた問題箇所を早期に解決した際には、家族の方が「すぐ対応してくれたんだ」と大いに喜んでくれ、英気となって、スタッフ一同の励みとなった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回、部署会を開催し、職員の意見交換の場となるような機会を設けている。	月に1回部署会を開き、問題提起や職員のやりたい事を聞いている。また、職員が意見を言いやすいように事前に聞き取りを行い、話題作りができる環境を整えている。外国人技能実習生の介護に対する取り組みから、新しい発見があった。「人は常に学ぶ！」の精神を大切にしている。	家族の意見箱の成果に準じて、同じ若しくは、違う形で職員の意見が反映できるようなBOX(人の目を気にせず意見が書ける)を製作してみたいかがあるか。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半期に1度ずつ、個人評価シートを用い個々の評価を行っている。また、職種別職務遂行基準表にて自己評価を行い自己の出来ていない所の気付きと改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職種別研究会を立ち上げ、各職種ごとのレベルアップの為に研修を行っている。また、外部研修にも積極的に参加できるように取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染予防の為、外部との交流は十分にはできていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	馴染みの関係になれるまでの間は、しっかりコミュニケーションをとり、人間関係の構築を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の介護に対する要望等を事細かに伺い、反映できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望を踏まえたケアプランを策定している。必要に応じ、福祉用具の利用を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	過剰な介護はせず、自分でできることはやっていただくようにしている。簡単な家事等は、職員と一緒にしようとしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員と家族が共に支援者となれるようにし、方向性を定められるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染予防の為、外部との交流は十分にはできていない。	コロナの影響で、遠出の外出は控えるようになった反面、隣のユニットや施設内を「一周旅行」と称して散策したことで、新たな馴染みの人や馴染み深い場所が身近につくられることとなった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は、共有スペースで共に過ごし、お互いの存在を確認し合っている。また、利用者同士が交流できるような時間を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後、利用しているサービス機関の職員に現在の様子を伺い、現状の把握を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中や表情等から要望などが聞き取れるようにしている。	利用者の気持ちを一番に考えて、納得するまで付き合うように配慮している。考えを押し付けるのではなく、「どうする？」の問いかけを大切にしている。「家族に電話しようか」と言うと「おー！！」と言って笑顔で喜んでくれる利用者と併せて、家族も喜びが増していた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前から、本人、家族、ケアマネジャー、ソーシャルワーカー等、関りのある方から情報を聴取している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント、モニタリングの中で問題が生じた時には、現状に添った介護サービスが提供できるような介護計画を検討している。	介護計画は、入居時、半年、1年ごとに作成していて、異変があればその都度見直しを行っている。モニタリングは、3か月に1度、会議の中で職員の意見を聞きながら見直しを行っている。また、毎日の振り返りを行うことによって、介護が日々のモニタリング形式となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の行動や精神状態など観察事項を記録し、細かいことも職員間で共有し、介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時のニーズに沿った介護保険事業所を紹介し、柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染予防の為、地域資源の活用には至らなかった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの馴染みの主治医が入居後もそのまま継続されるようにしている。また、協力医療との関わりを大切に、迅速な対応ができています。	センター長が看護師資格を持っているので、ドクターとの連携は密に取れ、職員も安心感が高い。基本的には入居前からのかかりつけ医を継続してもらっている。受診の際には、状況を的確に把握できるように日頃の様子をまとめた書類を持って行くようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師がおり、24時間連絡が取れる体制ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、情報提供シートを入院先に持参し、日頃の様子や入院までの経過を病院職員に申し送るようにしている。また、入院中も、様子を伺い情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応に関する指針、看取り介護指針を定め、入居時には同意書をいただいている。また、「その時」の対応はしっかり話し合い主治医との連携が図れるようにしている。	ターミナルの実績あり。看取りについては家族と常に相談し、できるだけ自然のままであることを尊重し、元気な時に聴いていた歌を流すことや、部屋で家族の方と一緒に過して見守りに配慮している。そんなエンジェルケアも行い、人生の終わりを「笑顔で微笑んでいるよね」と家族が思える人生を走馬灯のように映していた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを何時でも閲覧できる場所に置いている。また、定期的に事業所内で研修を行い、周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、火災や地震、水害を想定した避難訓練を実施している。また、防災計画は何時でも閲覧できる場所に置いている。定期的に防災教育を行っている。	昼夜設定で実施。防災の意識は高く、ハザードマップや緊急連絡網を掲示している。防災訓練では、職員が救助袋で滑る体験をし、途中で止まる問題点も発見し改善中である。備蓄は、法人内の富田の家に一括保管だが、お米やオムツは施設内でも保管している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の個性を把握し、その方に合った接し方を実施。接遇マナーの遵守に心掛けている。	家族の了承のもと、利用者に合った呼称で呼ぶようにしている。名字で呼んでも反応はないが、「先生」と呼ぶと返事をする利用者もいる。また、排泄失敗時の際には、プライバシーに心配りし、1対1での対応を心掛け、利用者の気持ちと向き合うことを大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	まず、どうしたいか、何がしたいかを伺い利用者本位の生活ができるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、受容、傾聴の姿勢を意識し、一人一人の意向に沿った生活ができるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った衣服を選択し、身だしなみを整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の咀嚼力、嚥下状態に合った食事形態で提供している。食べたい物を伺い、簡単な野菜の皮むきや、おやつ作りなどを職員と一緒に調理や食べる楽しみが持てるようにしている。	食事は1時間程度取っているため、自分のペースでゆっくり食事ができている。食べる場所は自由で、テレビの前で食べている利用者もいた。月2回、昼食作りやおやつ作りをする調理の日を設けている。部署の方針で職員も同じ食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の立てた献立で、バランスのとれた食事が提供できている。定時に水分補給を促し、一日に必要な水分量が摂れるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、自分で行えるようにし、できないところだけ手伝うようにしている。義歯の方は、就寝前には外し、入れ歯洗浄剤にて除菌、洗浄している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者毎の排泄表を記入し、排泄リズムが把握しやすいようにしている。オムツを使っている方も日中はトイレに座り排泄できるようにしている。	チェック表を活用し、排泄パターンを把握している。職員はソワソワしたりする動作など、些細な動きを見逃さずに適切な言葉掛けをしている。トイレへ頻繁に行く人に対しても、「さっき行ったでしょ」は絶対に言わずに、利用者本位に併せて、一緒に行くようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ自然排便ができるように、水分補給を行ったり、食事にも気を付けている。どうしても便秘になりがちな時は、緩下剤等で排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調や気分に応じ、入浴ができるようにしている。拒否がある時は無理強いせず、本人の要望を受け止めている。	基本は週2、3回で昼食後の入浴。利用者の気持ちを尊重し、毎朝起きてすぐの入浴や夜の入浴も可能。浴槽内では童心に返り、ゆっくりと自分の時間を楽しむ利用者もいる。浴槽に入れない人に対しては、シャワーキャリーを使用する工夫が見られた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜のメリハリをつけ、生活リズムを整えている。夜は、眠たくなったら居室に入り、スムーズに眠れるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬は、薬剤情報を確認し、どのような薬を服用しているかを把握するようにしている。また、薬効や症状の変化等、主治医に報告するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や職歴などからやりたいこと、好きなことなどを導き出し、脳トレや家事、カラオケなどが楽しめるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染予防の為、外出は自粛している。	遠出ができないので、各ユニット間を行き来したり、日向ぼっこをしたりして日々を過ごしている。また、施設一周旅行と称して施設内を散歩する工夫が見られた。他には、写真や画集を見て思い出にふけれる外出支援に代わる取り組みもしている。庭の散策や日向ぼっこは、落ち着けるシーンの一つとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	新型コロナウイルス感染予防の為、買い物等は控えた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	新型コロナウイルス感染予防の為、家族の面会を自粛した中、電話でのやりとりでお互いの安否を確認し合うなどを支援した。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	年間を通し、空調により快適な室温を調節している。また、空間除菌ができる加湿器にて適度な湿度とオゾン発生器による除菌や消臭にも配慮している。季節の飾りつけを行い季節感が持てるようにした。時間に応じ、照明を調節している。	リビングは広くて清潔感が保たれていた。空気清浄機の使用や窓を開けて空気の入替えをして、感染予防対策に取り組んでいた。利用者は、テレビに熱中したり、ティータイムを楽しんだりして、自分の時間をゆったり・ゆったりと過ごしていた。リビング全体に響き渡っている歌声が、今でも耳の奥底に奏でている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースでの座席は固定されておらず、その日、その時に本人が決めている。ソファーに座り寛ぐことが多い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から使い慣れた物を持参して頂いている。居室の壁には家族の写真なども自由に飾り、制限は行っていない。	部屋の壁には、写真や感謝状、誕生日の色紙が飾られている。家具は馴染みのものを自由に持ち込むことができ、本人や家族と相談し、安全面に配慮した配置をしている。窓の外には一面のブドウ畑が広がり、「生きている実感」を四季の移り変わりから肌と感じ取れる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境を整備し、障害物などからの危険が回避できるようにしている。トイレの場所がわかりやすいように表示したり、居室のドアに名前や写真で表札にし、自分の部屋がわかりやすいようにしている。		